

学校を応援したい6
「～ボランティアを経て～わたしたちに出来ること」

県立壬生高等学校 3年 柏崎 千里
 (栃木市教育委員会 都賀教育支所 主事 小松 宏嗣)

私は、栃木県立壬生高等学校3年の柏崎千里です。中学卒業と同時に都賀ジュニアリーダーズクラブに入団し、3年間会長を務めています。

都賀ジュニアリーダーズクラブは、主に地元行事の手伝いや小学生にリーダーシップを身に付けさせるために研修会のサポートをしています。毎年、行っている行事でも毎回違う発見や出来事があり、私達は楽しみや喜びで満ち溢れています。特に、レクリエーション大会やリーダー研修会といった体を動かしたり、考えたりする行事では、小学生だけではなくジュニアリーダーズもリーダーシップ等を身に付けることができ、前回よりもまたさらに成長することに繋がっています。

ジュニアリーダーズクラブは、地元の小学生達だけではなく私達メンバーにとっても非常に役に立っています。そして、子ども達の育成に繋がることが少しでも学校のお役に立てればと考えています。



＜交流の様子＞

リレー「となりの社教主事31」
「社教主事講習の宝物」

栃木市立静和小学校 教諭 荒川 達城

自宅の書棚の一角にある「社教主事講習コーナー」。分厚いファイルにぎっしり詰まった研修資料。めったに開くことのないファイルだが、その中に一つだけときどき引っ張り出しては眺めてみるものがある。それは、「宇都宮大学生涯学習教育研究センター」と印刷された封筒に入った緑のA3用紙。開いてみるとそこには「あなたに会えて、よかった。本当によかった。」とのタイトルの下に、21日間苦楽を共にした班のメンバーからのメッセージがびっしり書かれてある。読み返す度、「社教主事講習」を受けたあの暑かった夏の日が鮮明に蘇る。このメッセージは講習の最終日に班のメンバーが互いに書き送ったものである。「学校と地域の連携」とか「学校支援ボランティア」とか「協働」とか…今まで考えもしなかったことについて熱く、真剣に語り合った講習。あの講習のあと、学校に関わってくださる地域の方たちへの自分の思いは明らかに変わった。今まで以上に感謝の思いが強くなったと同時に、何らかのかたちで関わろうとする自分になった。廣瀬先生をはじめとするたくさんの仲間との出会いは、何よりの宝物である。そして、「自分もがんばらなきゃ…」と再びの奮起を促してくれる。

第2回研修会報告

11月20日(木)栃木市サンプラザにおいて平成26年度下都賀地区生涯学習研究会第2回研修会が開催されました。

研修会は、まず、宇都宮大学教育学部の松本敏教授により「学力向上の基礎づくりと社会教育への期待」と題して御講話をいただきました。次に松本教授の御講話を受け、参加者全員で「学力向上の基礎づくりのために、社会教育の視点から自分にできること」についてグループ協議を行いました。

学校と地域との関わりは時代によって大きく変化しています。時代に即した地域との連携をとおして、学力向上の基礎づくりをできることから実践していく必要性を参加者で確認することができました。

ぜひ、社会教育の視点を大切にしたい学力向上の基礎づくりを私たち、会員が中心となって推進していきましょう。



＜研修の様子＞

第3回研修会案内

来る平成27年2月3日(火)に小山市生涯学習センターにおいて平成26年度下都賀地区生涯学習研究会第3回研修会を実施します。

研修会は、まず、講話「子どもは地域の宝です。成長して社会の力になります！」そして、協議題「子どもの健やかな育ちを支えるために、求められる地域の力とは」をもとに、参加者がそれぞれの立場でどのようにつながることができるか協議を行います。

講師は特定非営利活動法人だいじょうぶの畠山由美理事長です。畠山氏の取組は下野新聞の「子どもの貧困」等で取り上げられております。ぜひ、私たちから地域のネットワーク構築を図っていきませんか。

編集後記

暗い話題になってしまいましたが・・・。今日は12月5日(金)。日曜日に骨折してしまい、明日から手術のため入院。神様が忙しい私に「休め」と言っているのでしょうか。このネットワークが手元に届くころには退院しているので、読むのを楽しみに手術がんばります。

あっ、皆さん。お見舞いは結構ですから(笑)(K)